1日　金曜

詩篇

<62> 指揮者のために。エドトンによって。ダビデの賛歌。

62:1 私のたましいは黙ってただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。
62:2 神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は決して揺るがされない。
62:3 おまえたちはいつまで一人の人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。城壁を傾け石垣を倒すように。
62:4 実に彼らは人を高い地位から突き落とそうと企んでいる。彼らは偽りを好み口では祝福し心では呪う。セラ
62:5 私のたましいよ黙ってただ神を待ち望め。私の望みは神から来るからだ。
62:6 神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は揺るがされることがない。
62:7 私の救いと栄光はただ神にある。私の力の岩と避け所は神のうちにある。
62:8 民よどんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。セラ
62:9 低い者はただ空しく高い者も偽りだ。秤にかけると彼らは上に上がる。彼らを合わせても息より軽い。
62:10 圧制に頼るな。略奪に空しい望みをかけるな。富が増えてもそれに心を留めるな。
62:11 神は一度告げられた。二度私はそれを聞いた。力は神のものであることを。
62:12 主よ恵みもあなたのものです。あなたはその行いに応じて人に報いられます。

「…ただ神を待ち望む。」「どんなときにも神に信頼」とは強い信仰のように感じます。しかし必ずしもそうとは限りません。自分ではどうすることもできなくて、また何も頼るものがもうないのです。それは自分の弱さを痛感した人のことばです。

そこには、自分の信仰の強さも弱さもありません。自分の信仰さえあてになりません。ではどうしたら良いのか。それは神を待ち望むこと、神に信頼することです。

信仰とは弱い人のものです。そして弱さに気づける人が強いのです。自分は神に頼むほどの状況ではないと、自分が強いと思える人は、実は弱くもろいのです。

信仰のあり方も含めて、自分の弱さと強さが何であるのかを再認識しましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？